

第25回 野沢温泉スキー合宿2022

11期 青柳 健二

・実施日 2022年2月25日(金)～27日(日)

・参加者 (4期) 佐藤・(11期) 青柳・
(22期) 黒崎・(26期) 畠山・
同奥様 5名

今年のスキー合宿は、12月末に2月4日から6日で開催案内を出すも、新型コロナウイルスの感染拡大が著しく、1月末には「蔓延防止等重点措置」が長野にも発令され、野沢温泉村では新規感染者が36人にも及ぶ事態となり、実施日を2月末近くに変更して実施しました。

但し、参加者は1月の段階で参加表明をされていた佐藤さん・黒崎さん(25・26日)に加えて、地元の畠山夫妻(26日の日帰り)と幹事役の私の5名に留まりました。

それでも、第25回という節目の年でもあり、「オミクロン株に負けるな、スキーで元気を創ろうぜ!!」と実施を決行したのでした。

・2月25日(金) 晴れ

何時ものように朝7時半過ぎに自宅を出て、大宮駅9時9分発の上信越新幹線はくたか555号に乗り10時32分飯山駅着。10時45分発の野沢ライナーに乗ると、佐藤さんが乗り込んで来た。11時5分には中尾バス停に着き、11時12分には宿“ふるさと”に入る。

佐藤さんと2人で12時15分にはスキーに出発。リフト券は、2日券(7700円也)とした。

新長坂ゴンドラで一気にやまびこ駅へ。去年と同様に感染対策で10人乗りのゴンドラを4人乗りに制限している。13時にはレストハウスやまびこへ入って昼食とする。先に食べていた黒崎さんはスキーに出る。本日のランチはビーフカレー(1200円也)

13時40分にスキー開始。やまびこAコースを3回滑る。途中で黒崎さんと合流。今年は雪がタツプリあり好天の中滑り易い。ただ今シーズンの初スキーで調子は今一歩上がらない。

喫茶ダンテで休もうと思ったら、ダンテがクローズしていた。既に15時となっていたのだ。レストハウスに戻って少し休んで、スカイラインを滑り降りてスキーを終えた。16時には宿着。スカイラインの滑降では2回転んだ。好天の中でのスキーには満足したが、調子を整えるには時間がかかりそうだ。日頃の運動不足を反省する。



宿の内風呂と美味しい夕食を食べて、疲れを癒す。本日のメインは天婦羅で美味かった。

食後は部屋で佐藤さん・黒崎さんと歓談。今年は金沢でも大雪で、雪かきに苦労したとの事。この日は、疲れを取るために早めに就寝とした。

・2月26日(土) 快晴

黒崎さんは、“観音坂いちえ”の仕事があるので、早めに朝食を食べて7時過ぎのバスで帰宅された。

8時30分には畠山夫妻が来館。8時50分にはスキーに出る。リフト券売り場が混んでいて、9時15分にリフトに乗るが、次の長坂ゴンドラでも長い列で、何とか毛無山山頂まで登ったら、快晴の下、絶景の世界が広がっていた。

毛無山1650mの標識の横で写真を撮る。妙高山が美しい。やまびこAコースの入口からは日本海まで見渡せた。この景色が野沢の醍醐味である。

佐藤さんは、懐かしの湯の峰ゲレンデで滑って見たいと、先に別れた。

やまびこAコースを3回滑って、喫茶ダンテで休み、11時30分には早めの昼食を取る。

2月の末近くで学生が多く、レストハウスでは席の確保には苦労したが、何とか席を確保してラーメンとプリンを注文して昼食とした。(1250円也)

12時30分にスキーへ。やまびこAコースを3回滑る。吾輩にとってはこのゲレンデがベストコースだ。最初の緩斜面からスピードに乗って爽快地に滑り、急斜面の上で一息ついてリフト下まで一気に滑りおりる。このバランスが絶妙なのだ。



佐藤さんが滑りに行った湯の峰コースがどうなっているか、確認の為に降りてみることにした。降りて見ると、湯の峰コースの入口にはロープが張られており滑ることができない。水無ゲレンデを滑り降りると、そこは牛首コースの入口である。吾輩にとっては絶壁のような急斜面である。佐藤さんは、どう滑ったのであろうか。運が良いことに、スノーモービルに乗った監視員らしき方がいて、2人ならモービルでパノラマコースのリフト下まで乗せてくれると言う。畠山さんには牛首コースを降りてもらい、吾輩と奥様はモービルに乗せてもらうことにして、日影ゴンドラの降り口で待ち合わせることにした。吾輩にとっては、八方尾根の黒菱ロッジでスキーを盗まれた時から2度目のスノーモービル体験であった。

15時にレストハウスに戻って、ホットする。缶ジュースを飲んで疲れを癒した。15時30分にスカイライン連絡リフトに乗り、スカイラインコースを降りる。さすがに足腰にガタがきて、途中からたぬきコースに入って下った。たぬきコースも初体験で、超長い緩斜面だが結構スピードが出る。それでも怪我も無く滑り降りられたのでホットした。16時10分には宿に戻り、名物の甘酒を飲んで一息ついたのであった。この瞬間のためにスキーをしている感覚で、喜びが心に染みわたるのであった。

この日は、学生と思われる若者たちが多く、夕食時には食堂は40人近い人で賑わっていた。そこで、畠山夫妻の分も追加をお願いし、一緒に夕食を楽しんだ。相変わらず一工夫された料理が並び美味しくいただいた。

畠山さんから、北越市の新聞に植木毅さんの計報が載っていたと伺った。85歳だったとの事。2019年の1月に山西さん夫妻を誘い、植木さんの日本アルペンスキー学校でスキーを楽しんだことがある。植木さんは数年前から脳梗塞を病んでいてご本人には会えなかったが、弟子達がスキー学校を運営していてスキーを教わった。植木さん直伝のアルペンシュティムターンである。レッスンの後、無圧雪の林間をコーチの後について滑ったが、すんなり滑れたのにはビックリしたものである。植木さんとの関わりは、スキー合宿20周年記念号で述べており、ここでは多言しないが、吾輩がスキーにのめり込んだ切掛けになったものであり、何とも言えぬ寂しさに襲われた。

畠山さんとは、19時30分まで楽しく歓談して別れた。疲れが溜まっており、21時30分には床についた。

・2月27日（日）小雪時に大降り

本日は天気悪し。好天の中を2日間タツプリ滑ったので、この日はスキーを止めて、昨年と同様に野沢の温泉街を散策し帰宅することにする。9時40分過ぎに宿を出た。



中尾の湯に来ると雪が本降りとなり、風情がある。大湯通りにあるジャム工房で、ジェラードとおやきを食べる。冷たさと暖かさが混在し、なんとも言えない味わいで不思議である。

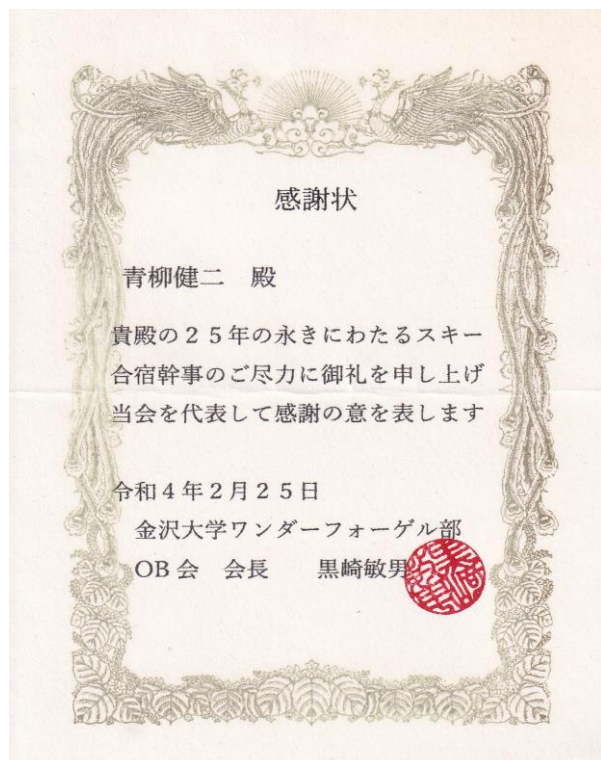
近くの食堂で早めの昼食をとり、13 時過ぎのバスで帰途についた。

さて、長々と 25 年間にわたり開催して来たスキー合宿であるが、最近の参加者数からして合宿としての役割は終了したと思われる。今後はスキー愛好者の「スキーの会」として野沢や志賀高原等でスキーを楽しもうと思う。

KUWV会長の黒崎さんからスキー合宿幹事について感謝状を頂きました。



皆さま、長い間どうも有難うございました。



<御礼の言葉>

青柳さん、長年にわたりスキー合宿のお世話をしてくださいまして誠にありがとうございました。

民宿「ふるさと」での宿泊の際などでも一人一人への細かな内容にも気を配っておられる姿が印象に残っております。

また、スキー教習のビデオも何度か見させて頂きましたが、本当にスキーが好きなんだなと思わずにいられませんでした。

このイベントは20周年記念誌に紹介されているとおり、多くの会員の皆様やそのご家族に参加、協力して頂きながら継続してきたものですが、私が参加するようになってからの数年の間でも年を追うごとに、ごく限られた方々のみが参加する寂しい会となってしまいました。

本文にあるとおり、一旦合宿としては締めくくられるということですが、これからも体の続く限り、スキーを楽しんで頂ければ幸いです。

会を代表してお礼申し上げます。

OB会 会長 黒崎 敏男



“モモの花” by かるちる @ ゆりえり
Licensed under CC BY 4.0: <https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/>